

# 平成31年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

## 目次

### 1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

### 2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
  - (ア) 全体の傾向
  - (イ) 国語
  - (ウ) 算数
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
  - (ア) 教科に関わる内容について
  - (イ) 学びに向かう力に関わる内容について  
（向上心・主体性・規範意識等）
  - (ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について



### 3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
  - (ア) 全体の傾向
  - (イ) 国語
  - (ウ) 数学
  - (エ) 英語
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
  - (ア) 教科に関わる内容について
  - (イ) 学びに向かう力に関わる内容について  
（向上心・主体性・規範意識等）
  - (ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

# 1 調査の概要

平成31年4月18日に実施した「平成31年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

## (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領(文部科学省))

## (2) 調査の方式

悉皆調査(対象は小学校第6学年、中学校第3学年)

【参考】 \*平成19年度～平成21年度：悉皆調査

\*平成22年度～平成24年度：抽出調査(※平成23年度は震災で中止)

\*平成25年度～平成31年度：悉皆調査

## (3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月18日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	332	73,380	1,028,203
中学校	258	62,371	938,888

○集計学校数

※4月18日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	863	19,263
中学校	2	419	9,513

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

## (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

○本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。

- ・実施教科が小学校が国語、算数の2教科、中学校が国語、数学、英語の3教科であり、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であること。
- ・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

○国語、算数、数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

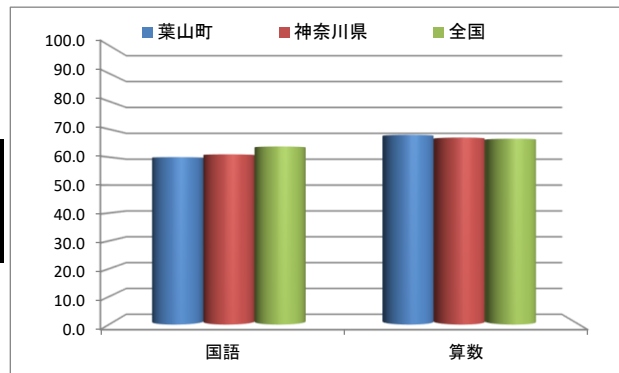
## 2 小学校に関する調査結果の概要

### (1) 教科に関する調査の結果

#### (ア) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	60.0	61.0	63.8
算数	68.0	67.0	66.6



- ・ 国語、算数の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。
- ・ 国語は、多くの領域、観点で全国・県とほぼ同程度の正答率であるが、「話すこと・聞くこと」の領域が全国に比べて正答率が下回っている。
- ・ 算数は、どの領域、観点とも全国・県とほぼ同程度の正答率である。

#### (イ) 国語

結果の概要	・ どの領域および評価の観点も、全国・県と同程度の平均正答率である。
話すこと 聞くこと	・ 「話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」問題では、全国・県と同程度の正答率であるが、「目的に応じて質問を工夫する」問題や「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる」問題の平均正答率はいずれも60%以下で、課題があると考えられる。
書くこと	・ 「書くこと」に関する問題は、いずれも全国・県と同程度の平均正答率ではあるが、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」記述式の問題では、町・全国・県ともに平均正答率が30%を下回っており、課題があると考えられる。
読むこと	・ 「読むこと」に関する問題は、いずれも全国・県と同程度の平均正答率ではあるが、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことや「本や文章全体を概観して効果的に読む」問題の平均正答率は約80%となっており、よくできていると考えられる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題の一部の平均正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。</li> <li>・ 「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」問題の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。</li> </ul>

今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を集めるためにインタビューする場合、話を聞く目的は何か、相手が自分に対して伝えたいことは何かなど、話し手の意図を踏まえて聞き取るとともに、聞いた内容をどのように活用するのかを明確にして聞く指導が重要である。そのためには、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問ができるように指導する。</li> <li>・ 自分の考えが相手に伝わるように書くために、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりして、より説得力のある文章表現ができるように指導する。</li> <li>・ 当該学年までに配当されている漢字を適切に使うことができるように指導することが重要である。そのため、繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で漢字の持つ意味を考えながら、実際に文章の中で正しく使うような学習活動の充実を図る。</li> <li>・ ことわざや慣用語の意味や使い方を正しく理解することができるよう、普段の学習や生活の場面で見つけたことわざや慣用語について、辞典などで意味や使い方を確認し、ノートやカードなどに記録するとともに、実感をもって捉えたり使ったりする活動の充実を図る。</li> </ul>
----------	--

(ウ) 算数

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの領域および評価の観点も、全国・県と同程度の平均正答率である。また、前年度まで見られた「無回答」の割合に一定の改善が見られた。ただし、問題が長文であったり、あるいは記述式で回答を求められたりすると平均正答率が下がる傾向があり、課題があると考えられる。</li> </ul>
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>「加法や減法に関して成り立つ性質を用いて計算する」ことはよくできているが、それらを応用して、「除法に関して成り立つ性質を言葉で記述する」問題の平均正答率は、全国・県とともに平均正答率が30%程度と低く、課題があると考えられる。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「量と測定」領域の問題は3問すべてが求め方や理由を記述する問題形式となっているが、このような記述式の設問では、全国・県も同様に平均正答率が低い傾向があり、課題があると考えられる。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>「台形を選択する」問題の平均正答率は90%を超えており、よくできている。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」問題や、「伴って変わる二つの数量から目的に即して情報を取り出す」問題の平均正答率は85%を超えており、よくできているが、「資料の特徴や傾向に関連付けて量の増減を判断し、その理由を記述する」問題では60%弱の平均正答率となっており、課題がみられる。</li> </ul>

今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、場面の状況に応じて物事を判断したり、解決過程や結果を振り返り、判断したことをより適したものに改善したりすることが出来るようにすることが重要である。その際、場面の状況を解釈し、数量の關係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断する活動の充実を図る。</li> <li>計算に関して成り立つ性質を見出し、表現することができるよう指導する。例えば、商が同じになる幾つかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見出す活動が考えられるが、その際、見出したことが他の数値の場合でも成り立つかどうかを確かめようとする態度が育まれるように指導する。</li> <li>計算の順序についてのきまりは、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすることが重要である。そのために、四則を混合させたり、( )を用いて一つの式に表したり、あるいは計算の順序を誤ると式の意味が異なってしまうことに気づかせたりする指導する。</li> <li>図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるよう指導する。その際、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明する活動の充実を図る。</li> </ul>
----------	--

(2) 児童質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞  
 「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(ア) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	小学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 国語の勉強は好きですか	59.6	64.3	64.2
② 国語の授業の内容はよく分かりますか	86.7	85.6	84.9
③ 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	70.2	69.1	68.5
④ 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	69.9	71.9	71.4
⑤ 算数の勉強は好きですか	63.7	68.8	68.6
⑥ 算数の授業の内容はよく分かりますか	82.3	83.1	83.5
⑦ 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	79.2	77.8	76.5
⑧ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	84.2	80.8	82.0
⑨ 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	79.8	81.1	82.1

課題及び改善点	多くの設問において全国・県と同様の回答状況であるが、「国語・算数の授業内容はよくわかりますか」の回答がそれぞれ86.7%、82.3%であるのに対して、正答率は、60.0%、68.0%と乖離しており、「よくわかったつもり」であるが、実際の理解は不十分という傾向が見られる。また、「授業は好きですか」の回答がいずれも全国・県より5ポイント程度低く、児童が関心・意欲をもって授業に臨めるよう工夫改善の余地がある。
---------	---

(イ) 学びに向かう力に関わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	84.1	81.0	81.2
②	将来の夢や目標を持っていますか	83.5	82.1	83.8
③	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか	77.7	78.0	79.0
④	学校のきまりを守っていますか	88.8	91.2	92.3
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.6	96.7	97.1
⑥	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	55.9	53.6	54.5
⑦	外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	85.2	70.1	68.6
⑧	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	73.6	77.2	77.7
⑨	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	59.6	64.0	62.5
⑩	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	75.1	72.5	74.1
⑪	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	81.7	83.5	82.8
⑫	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	58.7	67.5	74.2
⑬	解答時間は十分でしたか（算数） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	80.5	84.0	84.0

課題及び改善点	<p>「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知りたいか」という設問への肯定的な回答が全国・県と比較して15ポイント程度高くなっており、特筆すべき本町児童の傾向といえる。地域性及び学校教育の成果であるならば、さらに伸ばしていきたい。自己肯定感や規範意識も高く、それらが学びに向かう力になっていると推測される。今後も、より充実した主体的な学習活動となるよう工夫し、児童の思考力や表現力の育成を目指した授業を実践していくことが大切である。</p> <p>一方、「調査問題の解答時間が十分だったか」という質問への回答が、いずれも県や全国に比べて低く、不十分と答えた児童が多い。このことが各教科の理解力・思考力・表現力とどのように関連しているかどうか検証するとともに、限られた時間の中で必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめて表現する力を育むことが大切である。</p>
---------	--

(ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	96.9	95.1	95.3
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.7	80.7	81.4
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.4	90.8	91.6
④	新聞を読んでいますか ※「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合の合計	22.0	17.7	19.0
⑤	学校の授業時間以外に、1日当たりどれ位の時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	48.2	39.0	39.8
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (昨年度66)	74.9	69.0	71.5
⑦	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合	59.3	61.5	66.1

課題及び改善点	<p>朝食の喫食率や就寝・起床など、基本的な生活習慣については良い傾向である。読書の習慣については全国・県を10ポイント近く上回っており、さらに推進したい。「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」についての本町児童の回答が、昨年度より10ポイント近く向上しており、良い傾向である。今後とも家庭と学校が連携を図り、家庭学習の定着に取り組みたい。</p>
---------	--

### 3 中学校に関する調査結果の概要

#### (1) 教科に関する調査の結果

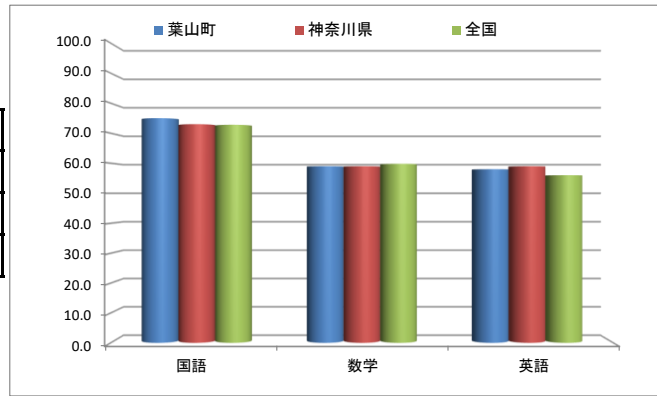
##### (ア) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	75.0	73.0	72.8
数学	59.0	59.0	59.8
英語	58.0	59.0	56.0

※平成31年度（令和元年度）より、英語（中学校のみ）は3年に1度の実施

※英語については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果



- ・ 国語、数学、及び英語の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較しても同程度と考えられる。
- ・ 国語は多くの設問で、全国・県と同程度の正答率であるが、「言語についての知識・理解・技能」という評価の観点では、全国・県に比べて平均正答率が上回っている。
- ・ 数学は、どの領域、観点とも全国・県とほぼ同程度の正答率である。
- ・ 英語は多くの設問で、全国・県と同程度の正答率である。

##### (イ) 国語

結果の概要	・ どの領域においても、全国・県と同程度の正答率である。基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られている。
話すこと・聞くこと	・ 「話し合いの話題や方向を捉え、それを踏まえて自分の考えを記述する」問題の平均正答率は、全国・県とともに平均正答率が60%程度と低く、課題があると考えられる。
書くこと	・ 「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」問題の平均正答率は、全国・県とともに平均正答率が80%程度で、よくできている。
読むこと	・ いずれの問題の平均正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・ 「封筒の書き方を理解して書く」問題の平均正答率は約60%で、全国・県の平均正答率を上回ってはいるが、実践する経験が少ないのか十分には定着しているとは言えず、課題があると考えられる。

今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導に向けて、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関連を図って指導する。例えば、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動や、互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動の充実を図る。</li> <li>・ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書くためには、自分の考えの根拠を明確にし、説明や具体例を加えたり描写を工夫したり、論理の展開を工夫したりするとともに資料を適切に引用するなどして書いたりする活動の充実を図る。</li> <li>・ 文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉えるために、目的に合った必要な情報に着目しつつ内容を捉えて読むこと、また、内容や表現を想像、分析、比較、対照、推論等によって相互に関連付けて読む活動の充実を図る。</li> <li>・ 字形を整え文字の大きさ、配列などについて理解して書く力を身に付けさせるために、毛筆や硬筆の書写の指導を適切にするとともに書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する。例えば、手紙などの通信文を書く場合には形式や内容に留意して書くように指導する。</li> </ul>
----------	---

(ウ) 数学

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの領域においても、全国・県と同程度の正答率である。領域別にみると、「数と式」及び「図形」は基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られているようだが、「関数」や「資料の活用」では内容の理解や思考・判断する力に課題があると考えられる。</li> </ul>
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>「四則計算と正負の数の関連」を問う問題や「簡単な連立二元一次方程式を解く」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率と同程度である。</li> <li>「連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になる理由を説明する」問題は記述式であるからか、全国・県・本町ともに無解答率が高く、課題があると考えられる。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解」の平均正答率は、全国・県の平均正答率を上回っており、よく理解できていると考えられる。</li> <li>「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し説明する」問題の平均正答率は、全国・県とともに50%程度と低く、また無解答率も高いことから、課題があると考えられる。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「反比例の表から <math>x</math> と <math>y</math> の関係を式で表すことができる」問題、「グラフ上の2点の <math>y</math> 座標の差について事象に即して解釈する」問題、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題の平均正答率は、町・全国・県ともに30%程度と低く、課題があると考えられる。</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断する」問題の平均正答率は、全国や県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。</li> <li>記述式で回答する「資料を整理した表から最頻値を読み取る」問題や「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題は、正答率が50%前後と低く、また無解答率が高いことから、課題があると考えられる。</li> </ul>

今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四則計算の結果の特徴を的確に捉える活動や、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実を図る。</li> <li>数学的活動を通して図形の性質を活用して論理的に思考する活動の充実を図る。また、成り立つと予想した事柄について、常に成り立つとは限らないことを反例をあげて示す活動の重視や結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明する活動の充実を図る。</li> <li>関数の意味を理解することができるようにするため、数学的な事象の考察を通して変化や対応の特徴を見だし、その上で表・式・グラフを相互に関連づけて考察する活動を取り入れる。反比例の表から特徴を見出し、<math>x</math> と <math>y</math> の関係を数学的に表現する活動の重視、及び事象の数学的な解釈に基づいて問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実を図る。</li> <li>代表値の必要性や意味を理解するためにデータを整理した表などから代表値を求める活動の重視、及びデータの分布の傾向を読み取り判断することを通して統計的に問題解決する活動の充実を図る。</li> </ul>
----------	--



(工) 英語

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・ どの領域においても、全国・県と同程度の平均正答率である。話されたり、書かれたりしている内容そのものを理解する力についてはついてきていると考えられるが、基本的な語や文法事項等を正しく用いて文を書くことには課題があると考えられる。</li></ul>
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「日常的な話題について、情報を正確に聞き取る」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率を上回っており、話されている内容を概ね理解できていると考えられる。</li></ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、情報を正確に読み取る」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率を上回っており、書かれている内容を概ね理解できていると考えられる。</li><li>・ 「社会的な話題を題材にしたまとまりのある文章を読み、説明文の大切な部分を理解する」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率を上回っているが、約40%の平均正答率に留まっており、初見の文章から必要な情報を選択する判断力に課題があると考えられる。</li></ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「一般動詞の1人称複数過去時制の疑問文を正確に書く」問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率を上回っているが、50%弱の平均正答率に留まっており、基本的な語や文法事項の知識が十分ではないと考えられる。</li><li>・ 「与えられた情報に基づいて、英語で説明する英文を書く」問題の平均正答率は、全国・県とともに50%以下と低く、基本的な語や文法事項の知識が十分ではないと考えられる。</li></ul>
今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 話し手からの質問や指示、依頼、提案などを聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答をする指導の充実を図ること。しっかりと聞く目的を持たせ、設定を工夫しながら活動を行わせ、どのような応答があり得るか考える活動の充実を図る。</li><li>・ まとまりのある文章を読んで、大切な部分を読み取る指導の充実を図る。そのために、文章全体を通して読み、書き手が最も伝えたいことはなんであるかを判断する力を身に付けさせるよう工夫して指導を行う。また、英語で書かれている文章全体を読み取り、自分の考えを示すことができるよう、主体的に内容を読み取る活動の充実を図る。</li><li>・ 考えや気持ちなどを整理して、まとまりのある文章を書く指導の充実を図る。そのために自分の考えや気持ちを整理したメモなどを活用したり、教科書の本文を使って文章の構成の特徴を意識させたり、接続詞や副詞、代名詞などを用いる「言い換えの手法」等を指導する。</li><li>・ 言語材料の確実な定着に向けて、発音やイントネーションなどの音声に関すること、語句や文の構造、文法事項などに関する指導にも配慮しつつ、「言語活動」と「理解や練習のための指導」の両者のバランスを工夫した活動の充実を図る。</li></ul>

(2)生徒質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学力向上」、「家庭学習」)に関わる設問を生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(ア) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	54.5	63.2	61.7
②	国語の授業の内容はよく分かりますか	77.1	79.1	77.6
③	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立を工夫していますか	68.5	75.2	64.4
④	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	65.8	68.9	68.4
⑤	数学の勉強は好きですか	53.3	59.9	57.9
⑥	数学の勉強は大切だと思いますか	74.7	81.8	84.2
⑦	数学の授業の内容はよく分かりますか	64.2	76.0	73.9
⑧	英語の勉強は好きですか	60.7	58.4	56.0
⑨	英語の授業の内容はよく分かりますか	75.5	67.9	66.0
⑩	1, 2年生の時に受けた授業では聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	71.3	76.9	77.4
⑪	1, 2年生の時に受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	61.9	81.1	77.2

課題及び改善点	「～の勉強は好きか」への回答は国語・数学の両教科ともに、全国・県の平均に比べて低くなっている。さらに、数学では「内容がよく分かる」「数学の勉強は大切」という生徒の割合は、全国・県の平均に比べて低くなっている。数学科の平均正答率が全国・県の平均正答率と同等であることを考えると、学びで身に付けた資質・能力を肯定的に受け止めていない様子が窺われる。知識・理解の定着が実感できるような工夫とそれらを活用して思考を深める場면을効果的に設定していく必要がある。英語では「内容がよく分かる」という生徒の割合は全国・県の平均に比べて高くなっているが、「英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動」「まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」については全国・県の平均に比べて低くなっている。学びの活用に関する場면을工夫した授業づくりをさらに推進していく必要がある。
---------	--

(イ) 学びに向かう力に関わる内容について (向上心・主体性・規範意識等)

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、良いところがあると思いますか	80.5	72.1	74.1
②	将来の夢や目標を持っていますか	70.1	67.7	70.5
③	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	98.5	95.2	96.2
④	学校の規則を守っていますか	74.7	68.0	70.3
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.5	92.7	95.1
⑥	地域や社会をよくするために何をなすべきかを考えることがありますか	50.2	35.9	39.4
⑦	外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	79.8	63.3	62.4
⑧	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	81.3	73.7	74.8
⑨	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	66.1	56.7	55.8
⑩	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	82.1	69.0	72.8
⑪	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	76.7	78.7	74.9

課題及び改善点	多くの設問において、全国や県の割合を上回っており、生徒の自己肯定感や規範意識、学習意欲、社会への参加意欲等が高いことが分かる。課題解決学習に取り組む授業では、生徒が積極的に考え話し合い活動に参加し、思考・判断・表現に取り組む様子がうかがわれる。今後はさらに、生徒に付けさせたい力を意識しながら授業づくりに取り組む必要がある。
---------	--

(ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	91.5	91.3	93.1
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.2	74.2	78.0
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.8	89.6	92.8
④	新聞を読んでいますか ※「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合の合計(百分率)	12.1	10.2	12.7
⑤	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	27.7	24.2	27.0
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	44.4	49.0	50.4
⑦	学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※「1時間以上」と回答した割合	74.4	73.4	69.8

課題及び改善点	「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」の項目では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答が全国や神奈川県より下回っている。学校外での学習時間量についての回答が全国の平均を上回っていることを踏まえ、今後も家庭と学校が連携を図り、家庭学習の定着と内容の向上に取り組む必要がある。また、「新聞を読む」や「学校外での読書時間量」は全国、県、本町共に低く、家庭において紙を媒介とした文字文化に触れる機会が圧倒的に少ないことが分かる。発達段階に応じて、文字文化との適切なふれ合わせ方にも注意を払っていきたい。
---------	--